

平成28年8月1日

豊田市議会議長 近藤光良様

教育次世代委員会

委員長 深津 真一 (印)



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

1 日 程 平成28年7月26日(火)～7月28日(木)

2 派 遣 先 26日(火)…静岡県磐田市「コミュニティスクール」
27日(水)…新潟県十日町市「十日町市スポーツコミュニケーション」
28日(木)…新潟県長岡市「長岡版「ネウボラ」」

3 派遣委員 委員長 深津 真一
副委員長 窪谷 文克
委 員 都築 繁雄 桜井 秀樹 根本 美春
山口 光岳 榎屋小百合 塩谷 雅樹
宮本 剛志

4 報 告 書 視察報告書のとおり

5 そ の 他 随 行 者／川北 尚志 柴田 賢人

視察報告書【1】

委員会名	教育次世代委員会	委員名	深津 真一
視察日時	平成 28 年 7 月 26 日（火）午後 1 時 25 分～午後 2 時 50 分		
視察先・概要	静岡県磐田市 人口：170,307 人 面積：163.45 km ² ※人口は H28. 6. 30 現在		
視察内容	コミュニティスクール		
選定理由	磐田市では、平成 25 年度から市内 4 校でモデル的にコミュニティスクールを実施し、平成 27 年度に市内の 32 の全小中学校を指定し、地域ぐるみの学校づくりに取り組んでいる。また、実施にあたっては、学校運営協議会の趣旨や内容を、丁寧に学校側や地域に説明し、大規模なコミュニティ・スクールフォーラム等を開催するなど、理解を深める取組などを本市の参考とするため。		
豊田市の現状と課題	本市では「豊田市版コミュニティ・スクール」の推進に重点的に取り組むこととしており、今年度、浄水地区の浄水中学校、浄水小学校、浄水北小学校の 3 校を指定し、モデル実施を開始している。 平成 29 年度以降では、他地区でのさらなる展開も考慮し、モデル実施の研究・検証や他市の事例に学び、準備をする必要がある。		
視察概要	1、小沼 磐田市教育委員会 学校教育課指導グループ長挨拶兼説明 青島 議会事務局主査 同席 (米田氏が司会) 2、磐田市教育「大綱」や教育の「道しるべ」を作成し活動実施 ①、平成 11 年度「学校協議会」を設置 3、平成 17 年度より 35 人学級の「ふるさと先生の導入」 ①、平成 17 年度合併時に、小学校 23 校、中学校 10 校（パンフより）に学校協議会設置（磐田市小・中学校管理規則 35 条） 4、平成 20 年静岡県より磐田市を開かれた学校づくり関係の実践研究推進地域に指定。 5、平成 25 年度 4 校を学府（各中学校区の小中学校全体）で進める小中一貫教育を試行導入（学校運営協議会小 2 校、中 2 校設置）。 （学校協議会を学校運営協議会制度に移行） *、学校運営協議会を設置している学校=コミュニティ・スクール（学校支援・学習支援・教育支援を学校や地域・保護者の皆さんのが社会総がかりでの教育の実現が、不可欠） ①、乗り入れ授業や子ども同士の交流実施 ②、中学校英語教師乗り入れによる、小学校低学年からの英語学習 ③、小中教員同士による情報交換やカリキュラムの作成実施 6、平成 26 年度 学校運営協議会 18 校設置（小 12 校、中 6 校） 7、平成 27 年度 学校運営協議会を全小中学校 32 校 （小 22 校、中 10 校）に設置 ①、コミュニティ・スクール推進事業開始（市費） - 学校運営協議会による学校運営への参画（校長・委員の協議） - 学校支援地域本部の役割（CS ディレクターと地域・学校連携） ②、CSD（コミュニティ・スクール・ディレクター）の配置開始。 8、磐田市は教育委員会主導で推進し、学校・地域の協力が良い。 9、学校・地域の諸行事や連絡調整を連携することによる効率化 10、CSD は、学校内外の調整など全責任があり、経験などの力量が重要で人材不足。継続的活動者の人材の発掘と確保に苦労有。 11、指定学校に、地域の部屋と専用の PC や机の確保などが課題。		

評価と その理由	<p>1、学校運営協議会に、校長作成の方針承認や教育委員会・校長に意見を述べること、教職員の任用に意見を出すことが出来るなどの権限委譲は、やる気に繋がり評価。</p> <p>2、コミュニティスクールの拡大により、教職員の業務改善で本来の業務に集中できる体制確保と地域力の導入は評価。</p> <p>3、地域格差の是正を、フォーラムや教育研修で方向性指導を評価。</p> <p>4、小中一貫校教育などの先行制度導入による、取組内容評価。</p> <p>5、教育委員会の主導による全校展開の計画的実施行動を評価。</p> <p>6、保護者の学校への苦情が、意見や提案に変わってきたということは大変に成果がある。</p> <p>7、実施している取組は、新しいものではなく、今までの延長線上だが、コミュニティスクールとして設置することで改めて意識が高まり、さらに取組が進むという点では良い。</p>
本市に反映 できること	<p>1、学校運営上で大切なことは、教育委員会が主導的に企画し実行推進の行動力が必要。</p> <p>2、小中一貫教育の推進など豊田市教育の本流を把握・企画し、学校教育（知徳体）の早期の成果だしを期待します。</p> <p>3、CSDの人材不足を抱えながら、目的に対し工夫して実践される職員・地域努力などの積極的行動は大切です。</p>
その他 (意見・課題 など)	<p>1、磐田市は良いことで推進されているが、静岡県は学校支援地域本部で対応十分の判断があり、今後の進捗を見守ります。</p> <p>2、全国で類似した取り組みを推進されるときの、単語や新語を統一指導される組織が必要だと思います。</p> <p>3、指導者・ボランティア不足で活動に停滞を起こさない協力体制要。</p> <p>4、教員以外のコミュニティスクールディレクター等の人材の育成、学校側の教師の理解が課題である。人材の確保・養成の仕組みが必要である。</p> <p>5、磐田市同様、全市的に導入するのかどうか、導入しない学校をしっかり選別するのも一つのあり方ではないか。本市の小規模校は地域としっかり連携できている点もある。</p> <p>6、地域の特性、事情に応じて相互の理解を深めることが重要である</p>



視察報告書【2】

委員会名	教育次世代委員会	委員名	深津 真一
視察日時	平成 28 年 7 月 27 日 (水) 午後 1 時 25 分～午後 2 時 55 分		
視察先・概要	新潟県十日町市 人口 : 55,572 人 面積 : 590.39 km ² ※人口は H28. 6. 30 現在		
視察内容	十日町市スポーツコミッショ		
選定理由	十日町市では、2002 F I F A ワールドカップ日韓大会でクロアチア代表チームのキャンプ地となった経験等を契機に、「多様な主体による活力ある地域づくりモデル事業」に取り組み、スポーツコミッショ設立の基礎をつくった。現在まで様々なイベントの誘致を積極的に行い、地域創生を目指しており、豊田市版スポーツコミッショのあり方の参考になると考えるため。		
豊田市の現状と課題	本市では、ラグビーワールドカップ 2019 などを始めとした大規模イベントが予定されており、国際的・全国的大会に集まる選手や来訪者に豊田市の魅力を感じ、滞在・再訪してもらうための体制整備が課題となっている。今年度は豊田市独自のスポーツコミッショのあり方の調査研究を進める予定で、大規模イベントの開催が、一過性のものとして終わらないよう取り組まなければならない。		
視察概要	1、上野議会事務局係長の進行、羽鳥総務文教常任委員長挨拶、山田十日町市スポーツコミッショ事務局説明、鈴木スポーツ振興課長補佐答弁同席（西方会長業務にて遅参され、挨拶など対応） 2、人口減少や基幹産業に不安を抱え早急な地域活性化の必要性発生 3、平成 10 年 2002FIFA ワールドカップ ベースキャンプ地立候補 4、平成 12 年大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」開催以後 3 年に 1 回に開催 5、平成 13 年クロアチアキャンプ内定（試合会場等の条件有） 6、平成 14 年 F I F A クロアチア代表チームキャンプ（5/20～6/2） ①、キャンプ終了後に盛大な成果に対し、今後の将来不安に意見多数あり。 7、平成 16 年スポーツによる十日町市形成に向けたまちづくり協議会発足 8、平成 18 年民間有志による総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会 発足 9、平成 20 年民間有志による総合型地域スポーツクラブ設立「ネージュスポーツクラブ」 10、平成 20 年十日町市スポーツコミッショ地域再生協議会発足 ①、「スポーツキャンプ拠点形成」を目指し、スポーツを活かしての地域づくり、地域活性化の実践組織または実験組織設立。 12、平成 24 年 6 月「十日町市スポーツコミッショ」設立準備会（体育協会・ネージュスポーツクラブ・観光協会が協力）が発足し、実証事業を実施し、地域経済の活性化を図ることを目的とする。 11、平成 25 年十日町市スポーツコミッショ設立総会 ①、基盤整備推進等 12、夏場に集中する課題あり、オールシーズンへの対応取組み中 ①、限られた行政からの財政支援のため、市民それぞれが活動する等、独自性で誘致 PR を役員先頭でパンフレット配布など活動中。		

評価とその理由	<p>1、キャンプ地目標に対し施設利用などを、市民の理解で来訪者へ開放優先的な取り組み評価。</p> <p>2、行政・産業などの関係者の協力体制が素晴らしい。</p> <p>3、総合型スポーツクラブが中心となり、市街地などでウォーキングを実施するなど市民目線を意識した活動企画は評価できる。</p> <p>4、スポーツキャンプ拠点とした、新たな基幹産業の創出活動評価。</p> <p>5、合宿の誘致に関して、全市民・全職員でPRに取り組んでいる点はすばらしい。本市でもいかに市民一人ひとりの意識を高めるかが重要。</p> <p>6、市の補助金も最低限で取り組んでおり、行政主体ではなく、知恵を絞りながら民間をうまく活用している点がよい。</p>
本市に反映できること	<p>1、目的に対し、地の利や自然を活かした新業種の開発意欲が素晴らしい目的の選定と企画行動の、成果だし行動とやる気行動大切。</p> <p>2、行政の立場を考慮し、民間主導の企画行動力の引き出し方法と施設の改修計画譲歩の相互理解による運営方法は良い。</p> <p>3、地域性かもしれないが、来訪者に対してのおもてなしの高感度が高く市民の目的に対する一体感体制は導入できる。</p> <p>4、来訪者に対しての、目的を鮮明にし、施設・宿泊・食事などの情報提供による相乗効果体制の導入は可能。</p> <p>5、クロアチアのキャンプ誘致をきっかけにしたように、きっかけづくりが市民を取り込む上で重要。</p> <p>6、おもてなしについては、特別なことはせず、普段通りのおもてなしをしているということで、本市も特別なことばかりでなく、普段どおりという視点も大事である。</p>
その他 (意見・課題など)	<p>1、キャンプ時期が集中し、新規でオールシーズン対応の新業種導入が今後伸びるポイントだと思います。</p> <p>2、経済や産業の長期的予測が難しいが、資料収集と研究調査は大切。基幹産業の低迷を感じて、行動に出られクロアチアキャンプに繋がったが、公共交通などの利便性は厳しく、今後の努力を期待します。</p> <p>3、企業の力など本市の独自性を早い時期からPRして、企業の見学や視察のルート含めて、スポーツと一緒に取組を続けて定着させ、ラグビーワールドカップだけでなく、民間とともに取り組んでいかなければならない。宿泊施設や観光パッケージの整備が急務である。</p> <p>4、市長からのトップダウンで市民意識の醸成を積極的に図ってほしい。</p>



視察報告書【3】

委員会名	教育次世代委員会	委員名	深津 真一
視察日時	平成 28 年 7 月 28 日（木）午前 10 時～午前 11 時 40 分		
視察先・概要	新潟県長岡市 人口：275,614 人 面積：891.06 km ² ※人口は H28.7.1 現在		
視察内容	長岡版「ネウボラ」		
選定理由	長岡市では、切れ目なく、きめ細やかな出産・子育て支援を展開するため、平成 27 年度から長岡版「ネウボラ」として、各種の子育て相談やサポートを充実させるとともに、産後ケアコーディネーター等を活用し、一人ひとりのニーズに合わせた一貫した支援に取り組んでおり、子どもを安心して生み育てられる支援体制の充実を図る上で参考になると考えるため。		
豊田市の現状と課題	本市では、第 2 次子ども総合計画において「安心して生み育てられる支援体制の充実」を 4 つの取組方針の 1 つに掲げ、各種相談体制・情報提供などの機会充実に取り組んでいる。より効果的に少子化対策に取り組むためには、それぞれニーズの異なる母子一人ひとりの健康が確保され、安心して妊娠・出産ができるよう、各事業の効果的な展開や相談体制の構築を図る必要がある。		
視察概要	<p>1、①関 議会総務課調査係主査進行、大谷子ども未来部子ども家庭課課長挨拶兼説明、②移動後に「てくてく」にて西山園長の説明</p> <p>2、平成 19 年、教育委員会に「子ども家庭課」と「保育課」を新設（乳幼児から思春期まで、子どもの成長に合わせた、一貫した支援体制構築。）</p> <p>3、平成 21～24 年度の 4 年間で「子育ての駅」4ヶ所開設 (父母からの「天候に左右されずに、子育て親子が集う施設建設」の要望を反映。)</p> <p>①、平成 21 年の「てくてく」は、公園内の施設計画に対し分野別問題を行政縦割りを調整協議し統合するなどの努力で開設した。 **全国初「保育士のいる屋根付き公園」</p> <p>②、平成 22 年の「ぐんぐん」は、防災公園に防災の拠点機能を融合して開設。**全国初「子育て支援と市民防災の機能が融合」</p> <p>③、平成 22 年の「ちびっこ広場」は、中心市街地の再開発ビル内に移転拡充し「まちなか絵本館」を施設内に開設。 (まちなか活性化をねらい設置)</p> <p>④、国の事業費補助・交付金等を効果的に利用し一般財源縮小効果。</p> <p>4、平成 23 年に教育委員会に「子育て支援部」を設置。 (4 年間の一元的支援体制の実績を踏まえ、教育と子育て支援の充実向上。)</p> <p>①、平成 28 年に「子ども未来部」に改称（更なる子育て支援取組。）</p> <p>5、平成 27～28 年度の 2 年間で 9ヶ所の「地域版子育て駅」開設 ①、地域の子育て支援センターを機能拡充し新たにスタート</p> <p>6、長岡版「ネウボラ」の実施（長岡市子ども・子育て支援事業計画（期間 H27～31 年度）策定時に展開）平成 27 年度 3000 万円予算 (平成 27 年 4 月施行の子ども・子育て関連 3 法の基づく法改正)</p> <p>①、平成 27 年 6 月産後ディケアるーむ「ままリラ」(マンション借り上げ) 全国初実施。その他、新規事業など多数導入。</p>		

評価と その理由	<p>1、産後ケアとしてのマンション借り上げなどの斬新アイデア取り入れ、全国初としての事業計画多数を評価。</p> <p>2、法改正施行に合わせた計画的事業企画と実施を評価。</p> <p>3、国の補助金・交付金及び合併特例債を項目選択し、有効利用した発想豊かな施設建設方法を評価。</p> <p>4、市民の意見を効果的に反映し、行政実施と成果だしを評価。</p> <p>5、子育てに対し、長岡版ネウボラ（H27年3000万円）など優先的予算付けで、各種事業の積極的支援体制を評価。</p> <p>6、母子保健推進員が子育て家庭の本音を聞きだすという視点が大変評価できる。</p> <p>7、産後デイケアルームままリラの利用率10パーセントには驚いた。本市でも同様な利用率を狙うにはかなり努力が必要だろう</p>
本市に反映 できること	<p>1、子育ての問題点を救い上げ、アイデアで実施（マンション借り上げ）などの良い事への探究心と行動力導入が大切。</p> <p>2、目的に対しての国の補助・交付金の有効利用は導入必要。</p> <p>3、子育て事業は重要である。他事業との諸問題も予想されるが、将来的な成果を期待しての、積極的取り組みは大切。</p> <p>4、本市よりもかなりきめ細かい施策を展開しているのは、市長の強い方針があってのことだと思う。強いリーダーシップがないとここまで取り組むことは難しい。</p> <p>5、13名の子育てコンシェルジュが、相談事業として受けるのではなく、普段活動する中で相談を受けてアドバイスしていく取組が日常的に行われている点は非常に参考になった。</p>
その他 (意見・課題 など)	<p>1、合併特例債の条件はよいが、普通交付税以外の3割の返却が発生するので、借入金発生・返却の判断を見守りたいと思います。</p> <p>2、事業推進に対しての転入者の数字効果が無いので、様子を見たい。</p> <p>3、保育師などの人材確保が課題で、委員会としても提案をしていきたい。</p>

